

「純川口産の箸」

卒業記念に贈る

市立本町小 PTA準備

川口市立本町小学校（小林博武校長）で、144人の6年生の卒業記念に「純川口産の箸」が贈られる。「思い出に残る記念品を」と、6年生の保護者でつくるPTAの卒業対策委員会（佐野妙子委員長）が、卒業式当日の24日に向け、準備している。

箸は市内の植木や屋敷林の伐採木などから作られる。市が調整役になり、造園業者や木工業者、袋を加工する福祉

施設、販売するNPO法人などの連携で生まれた「ふれあいの心が感じられる地元産品」（佐野さん）だ。

すべて市内で完結する箸づくりの協働事業を知った佐野さんが、保護者らに持ちかけて卒業記念品に決まった。例年は印鑑や鋳物製の文鎮などが用いられているという。

卒業記念用の箸は丈夫なカシの木を使い、表面の防水と防腐用の塗装には、自然素材の荏胡麻油を用いる。布製の箸袋の裏には、本町小の校章

を印刷することになっている。

佐野さんは「中学校でも給食で箸は毎日持参することになるので、格好の一品。エコの観点はもちろん、市内の多くの人がかかわって一つの成果になっていることに共感しました」。

商品化された箸のPRと販売を担うNPO法人川口市民環境会議の浅羽理恵代表は、「たくさんの人の手を経て完成した1膳の箸から、思いやりの心を育んでほしい」と卒業生にエールを送っている。



本町小の卒業記念品になる純川口産の手づくり箸